

# BIOLOGY DATE

1965年6月

昭和40年10.1

第一号



鹿児島高等学校  
生物同好会

## (序)

日本で現在記ろくされている蝶類が 200種余り そのうち 125種が鹿児島県内で記ろくされている。他県にくらべて種類数も多く 鹿児島独特の蝶が多かつたせいからでもあろうが 中央都市について研究も進み こゝ十数年の同好会などの活動はめざましいものであった。しかしそれ以前の数名の外人蝶類研究家をはじめ今は無き多くの洋着採集家が研究の土台を築いてくださったことは、たれど亦のできない事実である 我々はこのようなめぐまれた地において研究できることは何時にも交通を利用して採集に行く都會の人々にくらべてはるかに幸福である。現在は蝶類の生活史 分布など ほとんどあちこちまで達したと云われている しかしそれは あくまでも うわべだけのことであって、研究という研究は、今から本当にはじまろうとしているのでは つかろうか!

我々は、背後に 10~20分で行ける良い採集地がある、いつでも行けるのである。いつ行って多くの研究は、余りにしたくさんある その多くのことの一つ一つ生活史が判明したと、同じように努力して前進せねばならない。放課後、土曜日、日曜日あるいは、長期間の夏休みなどは、絶対の研究時間が与えられている。高校生であるから大学の研究室でやるようなことは、できなくても少しずつたがいに、協力しあって手を持って体験していくからでも大学の研究室でやっていくことに近づきたいのである。その研究したことの発表する機関が「BIOLOGY DATA」である 我々は新鮮な記録をビシビシ発表する「BIOLOGY DATA」第一号は若松ヒ徳永が二人で編集したが非常に多くの困難があったし 記ろくもまだ足りない。このようなことでは、会誌どころか 同好会まで生死の境を歩かねばならない。今こそ ファイトに燃えた多くの会員が入会していただくことを心からねがっている。はじめて二人で編集した關係上 少ないページのものになつたが、我々は、すべての記ろくをだしやすい一番善をつくして編集した。今後多くの会員が来まつていただけたら、まだ都度い 内容の充実した立派な会誌に成長していくであろう。未熟で御批判いたたく点も多いと思うが、ビンタ小小さなことで も気がかれたら、おしえて下されば 編集者としまして非常に幸いです

ここに「BIOLOGY DATA」第一号として 1965年3月~4月の記録と少數の 1962~1963年の記ろくを発表する

文末ではあるが 竹村芳夫 福田晴夫 山下秋厚 田中洋 成晃和然、田中章各先生方にはいつも懇切なる御指導をいただきいたし 又若松は甲南中生物クラブで、二年間御指導下さった浦辺文夫先生 なら 徳永は米坂実先生 それに鹿児島昆虫同好会の皆様が腰かく見守って下さらなかつたならば この会誌を発行するには、おおよばなかつたであろうと思います。紙上ではありますか 心より感謝の意を表して終がります。

(昭和40年初夏 若松茂正 徳永誠治)

# 採集器具及び標本作製器具

鹿児島高等學校生物同好会

昆虫は採集しただけでは何にもならない。標本を作製しなければ何の価値もない。以下の器具は我々が使用してみて良いと見える品物を買つた。なお詳しくは同好会会合で説明する。

## 採集器具

・捕虫網 金具ポケット式新型 直径36cm

四折組立式 36cm

二折組立式 36cm

スプリング式 30cm

網 本網上製 36cm

全上 30cm

柄 ポケット式網用 竹三本 つばさき  
全長270cm

竹四本 つばさき  
全長440cm

竹五本 つばさき  
全長440cm

・三角ケース 金属製 三角型 特大型

“ “ 大型

“ “ 種虫管装置付

四角型 (四角管)

・三角紙 ハービン紙製 3種 大 中 小

・毒壺 直径9×12

・殺虫器 時大型 4.5cm × 13.15cm

・ “ 大型 3cm × 13cm

・小昆蟲採集用吸水管 二重式

・採集バンド 線牛皮製 殺虫器大型 10本入り

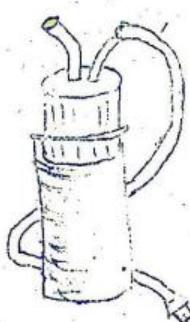
・昆蟲採集箱 線桐製 片面コルク 片面三角紙入り

25cm × 16cm × 9.5cm

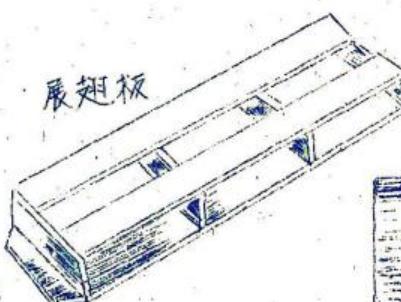
## 標本作製器具

- 展翅板 長さ36cm 6種 1, 2, 3, 4, 5, 6号 特大号
- 展足板 長さ36cm 上面コルク張り
- 足板 三種大中小
- 混虫針 ステンレス無頭 40mm 0, 1, 2, 3, 4, 5号 各100本入り
- 般用混虫針 " 有頭 " 0, 1号 各100本入り
- 虫針 シンチカツ製 30mm
- 展翅用玉針 100本入り 40本入り
- 微針 無頭 ステンレス製 250本入り
- タブル針 朝子矢ステンレス製 50本入り
- 微針專用コルク台 50個入り
- 小昆虫貼付用セルロイド板 600mm×17.5cm 10枚入り
- " 三角型 50本入り
- " タラカント糊
- 平均台 大型 小型
- ピンセット ステンレス製 外科用 13cm
- 独立型標本箱 50×41.8×6cm
- インロー硝子蓋式標本箱 特大型 40×30×6cm
- " 大型 36×27×6cm
- ポケット箱 大 17×10×6cm
- " 小 13×9×5.5cm

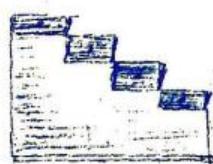
ラベル(昆虫名等) 各自適当な大きさに切って使用した(魚用紙或いは硬めの紙)



小昆虫採集用吸虫管二式



展翅板



平均台大



タブル針

# 春のキヨウの記録

\*特別に付記したもの以外は 捜索者 種本保存者 同業者は 若松天正である。

三月 11 1965

鹿市 池之上町

ムラサキシジミ 1合

ルリシジミ 1頭 団扇

サツマシジミ 1合 团扇(水)

石の上に いくらか水がたまつて  
いた やの水を吸っていた。

オツマゴキブリ 1頭 半死体

13 1965

鹿市 武岡

アカタテハ 1合

ムラサキツバメシジミ 1合

ムラサキシジミ 1合

14 1965

鹿市 武岡

アカタテハ 1♀

ムラサキツバメシジミ 1合

ムラサキシジミ 1♀

ルリシジミ 9合

モンシロチョウ 3合 1♀

16 1965

鹿市 武岡

ルリシジミ 2合

モンシロキヨウ ♀

ツマグロキヨウ +

18 1965

鹿市 武岡

ルリシジミ 5合

モンシロキヨウ 2合 1♀

ムラサキシジミ 1♀

ムラサキツバメシジミ 1合

キクチハ ♀

アゲハ キヨウ 2頭 团扇

25 III 1965

## 鹿市 武岡

アゲハチョウ	1合
ヒライキツベメレジミ	2合5
ヒラサキシジミ	5合1早
キタテハ	1合

27 III 1965

## 鹿市 武岡

ルリシジミ	1合早
ヤニシジミ	1早 同けさ
アカタテハ	1頭 目けさ
ソマグロキチヨウ	2頭

## 鹿市 上荒田町

ウラギンシジミ	1早 目けさ
---------	--------

28 III 1965

## 鹿市 上荒田町

ウラギンシジミ 1早  
 [越冬個体で完全度 2~3で 標印を貼みてア個体]  
 主せた。しかし ナジの若葉が 附近になく 効虫  
 に 印象化したが 飼育することができなく 残念]

30 III 1965

## 鹿市 武岡

アゲハチョウ	1頭
キタテハ	1合早
ヤニシジミ	1早
ルリシジミ	1合

四月

6 IV 1965

## 鹿市 田上町 唐沢農地

ヤニシジミ	2合52年早
ルリシジミ	1早
ヤコトシジミ	1合
ハメシジミ	1早

11 IV 1965

## 鹿市 武岡

アゲハチョウ	1早
コジャク	1合
キタテハ	1合

ムラカミシジミ 1早  
 ルリシジミ 2名古  
 モンシロキヨウ ⑧成見孝信さんと一緒に百余頭ネット  
 したが一匹もソマキキヨウは採集できなかつた  
 今年は一匹も採集できないが、どういう理由か

コミスジ	1頭	coll	poss	成見孝信
ルリシジミ	2名古	全	上	ル
アゲハキヨウ	1名	"	"	"
モクテハ	1頭	"	"	"

### 鹿市・武岡

ヤニシジミ	1早	coll	poss	徳永誠治
サツマシジミ	1名	"	"	"
ルリシジミ	1早	"	"	"
スジグロシロキヨウ	1名	"	"	"
モンキキヨウ	1早	(白色型)		
モンシロキヨウ	1早			
ヒメアカタテハ	1頭	異状小型		

19 IV 1965

### 攝宿郡 間宮町 池田湖畔

ヤマトシジミ	4名古	3早	早	
ウラナミシジミ	1早			
ヒメウラミシジミ	1名			
キキヨウ	1頭			
ベニシジミ	"			
ハルゼミの初鳴き記録				

池田湖畔へ生息までの間でアラセミのような  
声を数多く聞き 楠田晴夫先生にお知らせした。

ところ ハルゼミがあろうという、今年は初鳴き  
がちくれているそうです。

御教示下さった先生に感謝します。

ヤンマ類

19 IV 1965

## 横須賀市 国立町 池田湖畔

オミスジ 1頭 coll posf 德永

アゲハチョウ 1合 他多く同様

coll posf 14日目付着 德永

20 IV 1965

## 鹿市 武岡

クロアゲハ 1合

コナヤベネロセリ 1半

ハラガキソベメシジミ マツバシマ若葉 より幼虫の羽化  
卵数個見立った

5月9~12日の間に蛹化した。

25 IV 1965

## 鹿市 吉野町 鶴ヶ木駅 ~上之原 ~雀ヶ宮 ~川之

ガラスアゲハ 1合 coll posf 若松茂正

ジャコアゲハ 1合

キアゲハ 1合

サツマシジミ

16早

タ

1合

マクシマリシジミ

17 (0)

トヤクシマリシジミ

の春の記録上 9ページ

短報参考

ヤコトシジミ

数頭

coll posf 成島孝信

クロセセリ

1合

スジクロキヨウ

1合

モモキヨウ

1半

ミヤマガラスアゲハ

早 (ガラスアゲハ?) 未定

アカタテハ

1頭

*A. nigrofuscatus Oguma* 羽化前のヤコトシジミ採取 *A. nigrofuscatus Oguma* の新産地上 PII 短報

25 IV 1965

## 鹿市 城山

スジグロシロキヨウ 1合 coll posf 德永誠治

イツマシジミ

225

アイヌジアゲハ

#

キアゲハ

1合

モンキアゲハ

1合

ミヤマガラスアゲハ

早 (ガラスアゲハ?) 未定

アカタテハ

1頭

26 IV 1956

鹿市 武岡

ツマグロヒタウモシ  
クロヒタケ1♀  
1♀

28 IV 1956

鹿市 葉山町 鹿児島高等学校

ウチスズメ 1頭 coll RSS 徳永誠治

29 IV 1956

鹿市 武岡

アオスジアゲハ 2♂♂ 1♀

スジグロシロチヅミ 1♀

クロヒタケ 1♂

鹿市 上荒田町

ナガサキアゲハ 1♂

## 蝶類種類別採集及び目撃頭数目録

(春のチョウの記録より)

頭数の表わし方は 正…五頭 正…四頭 下…三頭 下…二頭 一…一頭

セセリ蝶科	昌平頭数			採集頭数			シジミ蝶科	昌平頭数			採集頭数		
	否	平	不計	否	平	不計		否	平	不計	否	平	不計
コチャバヤセセリ				—	1		ハラガヤツバメ				正	T	6
クロセセリ				—	1		ベニレジミ	—	ヰヰ	正	正	正	6
アゲハ蝶科							ウラナミシジミ	十	一				1
シヤコウアゲハ				—	1		ヤマトシジミ			正	下	正	13
アオスジアゲハ	ヰ	ヰ	正	—	3		トリミシジミ	—	1	正	正	正	29
ヌアゲハ				T	2		マムラマルシジミ			—			1
アゲハキヨウ	ヰ	ヰ	下	—	5		サンマレシジミ	—	1	正	—	—	6
クロアゲハ	十	十	一	—	1		ソバメシジミ			—			1
ナガサキアゲハ	ヰ	ヰ	一	—	1	タテハ蝶科							
モンキアゲハ	ヰ	ヰ	一	—	1	ツマグロヒタウモシ				—			1
カラスアゲハ				—	2	コミスジ					T	2	
シロ蝶科							エタテハ	ヰ	ヰ	T	T	—	5
ヌキヨウ		十	十	—	2		ヒメアカタテハ						—1
ツマグロキキヨウ		十	十	T	2	シヤイメ蝶科							
モンキキヨウ				—	1		ヒメウラナミシジミ			—			1
モンシロキヨウ	ヰ	ヰ	正	下	8		クロヒタケ			—	—	—	2
スラブロキヨウ				T	—	4	コジヤメ			—			1
シジミ蝶科							タテハ蝶科 アカタテハ			—	—	—	3
ハラサキシジミ				T	ヰ	6							

# 今<／春のキヨウの記録を思うままに一言

- ・今年は異状的天候で蝶の発生がどの種類においても大部遅れている。そして発生期が今年は遅くなかった。どんな理由から発生期が個体数に変化があったのか疑問である。唇には絶対といっていいほど欠かせないツバキキヨウが今年は一つも話題をきかない。
- ・種類別にのべてみると、去年一表多かった、ムラサキレジミ ムラサキバメシジミが少なかったように思う。なお、アテバシイ休眠芽の跡が去年よりも少なく見られた。
- ・1963年に採集されたマクレマリリジミが1965年に2年ぶりに同地舊木駅、イヌキ粗根で採集された。
- ・タテハキヨウ類が越冬する内でキタテハは意外多く、ヒメアカタテハ アカタテハが少なかった。なおルリタテハは、1頭も図鑑していれない。
- ・ジャノメ科のコジャノメとヒメジャノメは、コジャノメの発生が早く、4月中旬には、ヒメジャノメは目撃していない。

## Erynnis montanus BREMER ミヤマセセリの新産地

若松茂三

1965年4月4日 一昨年 Nanophyes pygmaea Rambur ハツキヨウトントボを求めて1合 2PP 採集して去年は調査不足のため、採集できなかったが以前から成虫発生あり ハツキヨウトントボのマダガ い名はすだからきっところようどこ云はれていたので、同一一時採集された竹を中心て田舎の溝のあるところやその付近の水たまりを サルであさって、ちょっと前にあけると目の前の枯木の間に何か黒っぽい個体が隠れていてやがて止ったよく見てみると新鮮なミヤマセセリであった。はじめて見たのと、以外な場所に名づき、ネットをヒリヒリの家へ走った、用具を持ち引き戻したところ ミヤマセセリのしきものは姿を見せない。二度と姿、形を見ることはできなかつた。

天気は快晴で湿度 20% この場所へ来てみればと悔まれた。  
この日、先が転勤のため加治木へ引越した、二度とこれないのではないかと思うと、ハツキヨウトントボ Septulina uricolaris (Semper) gray キンイチモンジセセリ Tephritis fusca shigae Tsubistaylori クロシジミ それにミヤマセセリを加えた当地は、実に去り難い。どれも新産地として紙上で発表したものばかりであった、永遠にこのまま自然にまかせよう あるいは成虫発生が研究され次第おもいに切りくずされるかもしれない。しかしもしもこの日採集したマダガは野進して成虫先生に見てもらひて ハツキヨウトントボのものがあつたら又の機会に発表したい（場所は姶良郡東野町ニ津部郷）

## *Celastrina paphia HORSFIELD* マクシマリシジミの春の記録

若松茂正

1965年4月25日 鹿児島市鹿ヶ水へ上之原へ佐々木へ瀬のコースで採集に行つたが 春のマクシマリシジミの記録は 少ないと、かねがね耳にあって 同日も本種が目的ではなかったが 鹿ヶ水のイスノキで目を迷しているうちに、イスノキの植根の所からとびだしたシジミを採集したところ ヤクシマリシジミ 幸であった。

1963年3月13日 宮之原茶園君が 鹿ヶ水で採集しているので 鹿児島市付近で 薩摩半島での、二番目の採集記録である。なお 標本は、筆者が保存している

- 引用文献 「マクシマリシジミの春の記録」(1964) 田中洋 宮之原茶園  
SATSUMA No38号 P184.

## 徳永誠治君の標本を見て

若松茂正

「Biology DATA」編集のため 徳永君の記ろく集めに行き 標本を見せてもらつたが、数々の特記すべき記ろくがあつたので 紹介せんでもらつた。以下が それである。  
ながら心よく標本を見せてくださいと、記ろくを収集してくださった、徳永誠治君に感謝します。

- *Rapilia macilentus fassli* オナガアゲハを吉野町で採集

徳永誠治

1963年9月中旬 鹿児島市 吉の町 吉野中学校附近で オナガアゲハらしきものを採集して筆者が保存している。よく見ると尾状突起が非常に長くジャコウアゲハに見られる腹部の赤いしま模様がなく オナガアゲハの名にみられる後翅前縁の白糸がないことから オナガアゲハの幸であると思ふ。鹿児島市近郊では 近年記ろくが なかつたと思うので ここに収集します。

- *Lestalina nivicola Breuer & Gray* ギンイチモンジセリの大口での記録

徳永誠治

1962年5月3日 大口市にてギンイチモンジセリの春型と夏型採集して筆者が保存している。

- *Graephium downi C. & R. Felder* ミカドアゲハの春と夏の記録

1963年5月5日 鹿児島市城山頂上付近のオガタマの木 5頭春型採集 Coll Posse 徳永誠治

1963年7月14日 鹿児島市城山旧道登山口付近の白い花 1頭夏型完全採集 Coll Posse 徳永誠治

- *Sarcinatus latitaria mangabe* MARUMO ハスオヒトガラシウムを城山で採集

徳永誠治

1963年6月下旬の夜、城山遊樂園、西松尾空谷の螢光壁に飛来したハスオヒトガラシウムを2頭採集した。標本は、承認実先生に御贈定いただき深く感謝します。

※本種は 九州では 植物保久的研究および 標本集王名即 坡下ヒ屋久島で産するがまれな種である。

*A. nigrifasciatus* Oguma が守る湿地

若松茂正

5ページの春の記ろくの中にも一応記しておいたが、一緒に採集に行かれた、成見孝信さんの兄さんに当たる成見和経先生にも標本を贈送していただきましたので *A. nigrifasciatus* Oguma クロスジギンヤンマ新産地として発表する。

1965年4月25日 場所は、いそローダーで一の苦の側から寺山の方へ数百メートル農道わきの 農業用水だめであった。一目見てぬけがらを多数さかしだし度に思い 水だれをネットであさってみたら「ア頭の の羽化直前の熱帶れるヤゴを採集した。ナイロン袋に入れ持ち帰り 以下飼育の記ろくである けつさよく(頭)のうちに 二段羽化させた。

標本を確認して下さった成見和経先生には深く感謝します。

◎羽化までの飼育記録

*A. nigrifasciatus* Oguma の 羽化直前終令ヤゴ 17頭

・成見孝信 4頭

(4頭)

- 2頭死
- 1頭羽化して逃亡 3Y 1965
- 1頭羽化 4Y 1965

・若松茂正 3頭

(3頭)

- { 2頭 小さい池に放して  
いたが うっかりして、  
6日に見たときは、1頭  
しかいなかつた
- 1♀羽化 bY 1965

「鹿児島市の蝶類」を 1966年初夏までには何らかの形式で  
若松茂正がまとめるとおりである。各地でまとめられておりにも  
かかわらず一番重要な鹿児島市の記ろくがまとめられていま  
せん。鹿児島市の記ろくをお持ちの方で未発表のものがありました  
ら下記の住所までお手数をかけますがお寄せ下さい。

御協力を切にお願いします。 (鹿児島市 上荒田町 1739 若松茂正)

# 蝶の飼育 Corner No. 1

鹿児島高等学校生物同好会

## ○はじめに

この欄は毎号登場する 蝶の飼育などの生活史はある程度今まで達しているところをうことは、序でものべているが案外よく考えると一般種の飼育よりも 現在の学会などにて、問題になつてゐる飼育会の先端を行つてゐる物だけが 史上でにぎわされている。

この欄では、会員がはじめて体験した飼育が数多いために飼育用具等の専門的用語が使用されなく幼稚な飼育に見えるかも知れないがあとあと飼育する人々にもなるべくわかり易く記して飼育の大のしさ 意義を理解してもらひ だんだん種友をあげて立派な「飼育コーナー」にしていきたい

No.1として キタテハの飼育記録を下記する



### キタテハの飼育記録

飼育者 岩松茂正

○母蝶 来野町ニ泊産 19 III 1965 Coll POSS 岩松茂正 1♀  
鹿市 武田産 25 III 1965 Coll POSS 全

\*採卵を試みるまでは 両♀は三脚紙の中に生かしておいた。

○採卵場所・鹿児島市上荒田町 自宅の庭 日当りの良い所

○生月日・1965年3月26日～30日

○全植物・カナムグラ岩葉 (クワ科)

○全方法・30cm 平方のナイロン袋中に カナムグラの岩葉を入れ その中に2♀をはなす その際袋は、小さくまとめてある。

○全個数

• 1965年3月26日 102コ	• 1965年3月 29日 天気悪く採卵 試みず
27日 47コ	• フ 30日 54コ
28日 42コ	▲ 計 245コ
— 12 —	

○ 傳化		1965年 4月 13～15日間
○ 脱 皮 2令		1965年 4月 18～20日
○ 脱 皮 3令		1965年 4月 27～29日
○ 脱 皮 4令		1965年 5月 3日～5日
○ 脱 皮 終令		1965年 5月 7日～9日
○ 脱 皮 蛹化		1965年 5月 12日～15日
○ 羽 化		1965年 5月 23日～27日

卵 期	16日～18日間
幼虫期	29日～30日
蛹 期	11日～12日

### ④ 飼育所要日数 56日～60日

○ おわりに

上記は人に分けてやったり、死んでしまったものを除いて約170頭を主体として記ろくした。非常に数が多かったために記ろくをとる事がきわめて困難であった。この記ろくがいくらかでも参考になれば幸いである。

## △生物同好会会員募集 △

「序」あるいは「同好会活動にあたって」でものべられてあるように、いかなる立派な研究を行なうにしてもそれに、伴う立派な人材がおおく必要であります。少數の蝶の記録をとるだけなら一人や二人でやれるでしょう。しかしそんなちっぽけなものではなく、その蝶を飼育するならするなりにあらゆる数多くの問題が考えられるでしょう。そんな細かいことを研究するのはとても、少數の人材では研究不可能であると言えましょう。

立派な人材が多く集まり分担研究しそれを一つの研究としてまとめていく、これこそ高校の生物同好会のふさわしい姿ではないだろうか 又これぐらいは、やらないと同好会としての意味がないのでは ないだろうか 我々は、今多くの多くのよい人材を必要としている、そして更に研究を積み重ねて 立派な、同好会を必ずつきあげ 近き将来にはクラブにまで発展させたいものです。

生物に関するどの分野でも良いから研究してみようと思う人は 鹿児島高等学校生物同好会へ入会してください。

生物室に輝く 多くの立派な授賞物の数々 十余年に わたる輝かしい伝統、立派な先輩、それに続く後輩 しかし今は少數で活動しているにすぎない

今こそ大いなる研究心に燃ゆる若者たちよ 入会されよ それが 学校のためであり 延いては、文化向上のためでもあります

鹿児島高等学校の 生物同好会を もりあげ育てようではないか !!



「入会希望者は

IのC 川松茂正 あるいは

IのG 徳永誠治まで

御連絡下さい。



## ◎生物同好会活動にあたって

四月中旬の放課後では なつかしきと記憶していますが  
若松茂正・徳永誠治両君から中学時代に続いて蝶の研究を  
継続したとの申し出があり、今後の研究課題について相談  
した結果 蝶の生理 生態 形態等の中底い視野から体得  
するためには 多くの同好者を必要とするわけだが その  
同好者の数少ない事を痛感し 会員多数の募集を望む所第  
である。

私自身 蝶に関しては 全くの素人であります。蝶への  
の趣味と学究的な関心は 沈すしも採集家であり 勝集家  
であるべき約束ではなく 豊かな知性と誠意をもって自然を  
観察し 自然に親しむことこそ よりよき人生の豊みであり  
國の文化を高めて行こうとする所以ではなかろうかと  
思ひます。

会員募集が おくれ 研究材料を逸してしまった感もありますが 早い時期に 同好者が あつまり 研究活動を軌道に のせたいものです。

昭和 40年 6月

生物同好会顧問 宮原国男

## 編集後記

皆さん ごらんになっていかがでしようか 注意して戴きたいと感じながらも 内心非常にひやひやしているということは、やはりどこかに手おちがあるのではないかとの心配からであります。しかし我々ができる範囲においては、精一杯やりました。更に会誌の発行がおくれたことを深くおわびします。始めの計画では五月のゴールデンウイークを利用して発送まで完了の予定でしたが 五月とすると 野山はあっかり新緑でおおわれて 家にじっとしておれず 340円出して東野岳へ出たり 武岡、城山を回わたりして、虫屋の本能を發揮していると こんなのは採集品の整理をしたり 又二人共度な業務が多くなかなか 適当な時間も見つけないうちに現在に至りました。今年は各地で異状天候で その影響が日益しに聞かれるようですが、セミの初鳴きが遅れたり春特有のツマキチヨウも私の知る限りでは採集した方は いないようであつたく困った事である。最初に採集道具 一般種採集記録 短報それに飼育記録の順で編集しました 高校生ですから なるべく学名を使用しようと決め、又少しでもなれて 覚えてもうおうと一種一種記しています。会誌の紙の質はあまりよくないが 同好会ですので 少ない経費でこの紙質を使うことにした。次号は七月上旬に発行を予定しています。珍縁がふえる月ですので 必死で、ネットを振りまわしていると つい発行予定を忘れてしまい、そうな気がしてなりません。記ろくが もう沢山集まっていますので 内容の充実した、かなりの会誌になるでしょう 宮原先生の「魚の一言」も 初心者に わかりやすくまとめられて興味深く読んで いただけます。とうとう梅雨に入りました。じめじめしていやなものですが お体には皆さん気をつけて頑張って下さい 次号に珍縁の記録が発表されるのを信じつつ終ります。

御意見や御希望は 鹿児島市 薬師町 383番地 鹿児島高等学校  
生物室内 鹿児島高等学校生物同好会編集部へ  
どうぞよしください 意義ある御意見や御希望  
をお待ちしています。

(若林・徳永)

## 目 次

序	若松茂正・徳永誠治	(1)
採集器具および標本作製器具	鹿児島生物同好会	(2~3)
春のチョウの記録 三月へ4月	全 上	(4~)
蝶類種別採集および目鑑頭数目録「春のチョウの記録より」		(8~9)
<i>Erynnis montana</i> BREWER やマセセリの新産地	若松茂正	(9)
<i>Celastrina pappa</i> HORNBILL やクレマリ・シジミの春の記録	若松茂正	(10)
徳永誠治君の標本を見て	若松茂正	(10)
<i>Argynnis milberti</i> JASON オナガアゲハを吉野町で採集	徳永誠治	(10)
<i>Hegelina evonymi</i> BREWER & GREY やシキエニセセリの大口での記ろく	徳永誠治	(10)
<i>Argynnis idalia</i> C.R. FEDDER ミカドアゲハの春と夏の記ろく	徳永誠治	(10)
<i>Thaumatoctena debitans</i> moryaku MARUMA ハビトカリシマヨ城山で採集	徳永誠治	(10)
<i>Anisognathus ciliatus</i> OGUMA の新産地	若松茂正	(11)
「鹿児島市の蝶類」発行のお祝い	若松茂正	(11)
蝶の鉛育 Corner no.1	鹿児島生物同好会	(12~13)
生物同好会々頭募集	全 上	(13~14)
生物同好会活動にあたって	宮原国男	(15)
編集後記	若松・徳永	(16)

BIOLOGY DATA 1965年 6月 10.1 第一号

鹿児島高等専門学校生物同好会編

発行日 昭和40年 6月

編集者 若松茂正・徳永誠治

本部 鹿児島市榮町 383

鹿児島高等専門学校生物室